

うどんこ病抵抗性と密植栽培適性を兼備し施設栽培に適した ダリア切り花用品種の育成

1 代表機関・研究統括者

国立大学法人千葉大学大学院園芸学研究科・三吉一光

2 研究期間：2018～2022年度（5年間）

3 研究目的

ダリア切り花を増産ならびに安定供給するために必要な、施設栽培環境に適した、すなわちうどんこ病抵抗性を持ち、かつ密植に適した草姿で、さらに花色などが安定した新品種を育成する。

4 研究内容及び実施体制

① うどんこ病抵抗性および草型を改良した系統の選抜

うどんこ病抵抗性と密植に適した小型で立性の葉を持った個体を育成する。うどんこ病抵抗性の選抜遺伝子マーカーを探索し、実施期間中に実用化する。
(千葉大学大学院園芸学研究科, 株式会社ミヨシ)

② 増殖と種苗の無病管理

営利栽培に必要な苗の無病化を行い試験管内で維持し営利栽培に備える。また、秋田県と宮崎県の4年目と5年目の試作で用いるプラグ苗の生産を行うとともに、営利生産に必要な発根性などの苗の生産性を検定する。
(千葉大学大学院園芸学研究科, 株式会社ミヨシ)

③ 南北リレー出荷に必要な広域適応性を持った系統の選抜

前年度に一次選抜した系統を対象に、寒冷地および暖地における花の色や形の安定性について栽培試験によって選抜する。(秋田県, 宮崎県, 株式会社ミヨシ)

④ 普及支援業務

実用形質の選抜の際に個人育種家ならびに大手販売会社の立場から助言を行う。また、ダリアの注目度が高まる秋から冬にかけて品種候補を株式会社大田花きと協力して最終年度後半から宣伝と普及に努める。
(株式会社ミヨシ, 株式会社大田花き)

5 達成目標

上記①～④により、うどんこ病抵抗性と立性かつ小型葉を持ち、さらに花の形や色が安定的に発現する系統を選抜し、最終年度末に品種登録の申請を行う。さらに、速やかに育成した品種を普及させるための、広報活動を最終年度の秋から実施する。

6 期待される効果・貢献

本事業において育成する施設園芸環境に適応した品種により、施設栽培における生産が増大し供給も安定する。また、南北のリレー出荷によって、潜在的な大きな需要があるにもかかわらず、これまでにそれぞれ秋の約半分程度の出荷しかなかった冬と春にも増産が可能となる。

30030C

うどんこ病抵抗性と密植栽培適性を兼備し施設栽培に適したダリア切り花用品種の育成

背景と目的



ダリアの花は大きく鮮やかで人気が高い



【うどんこ病】
難防除性病害

ダリア切り花は毎年生産が増大してきたが、需要を十分に満たしていない

【市場関係者・花屋の声】

ダリアは人気の高い切り花で安定供給されるとさらに消費が拡大する

施設栽培の振興は生産増大と安定供給が必要不可欠

既存品種に替わる施設栽培に適応した品種の開発が必要

【生産者の声】

● 【うどんこ病抵抗性】品種があれば
⇒突発的な防除作業が不要になる！

● 【立性・小型葉】品種があれば
⇒栽培密度を高めて収量増＋低コスト化！
⇒農薬散布の省力化と防除効率が上がる！

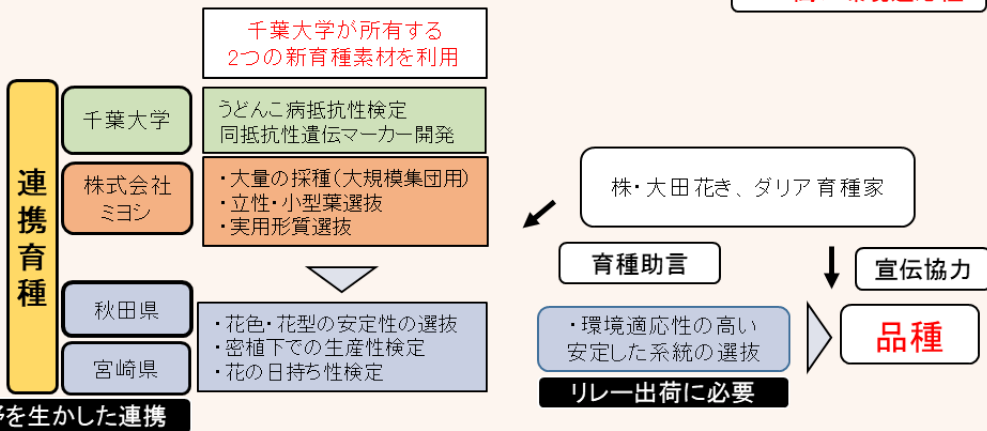


左・従来品種
右・【立性・小型葉】育種素材

研究内容

施設栽培に適した【うどんこ病抵抗性＋立性・小型葉】の品種育成

＋ 高い環境適応性



達成目標

環境適応性が高い

施設栽培に適応した品種の開発

- ・薬剤散布回数が減らせる
- ・高密度栽培が可能
- ・南北産地間リレー出荷が可能

期待される効果・貢献

- ① ダリア切り花の生産構造の改善(施設園芸の振興)
 - ・秋～春のリレー出荷による安定供給
 - ・施設園芸の規模拡大/露地栽培から施設栽培への変換の促進
- ② 増産と安定供給により需要を取り込んだ消費の拡大